

## [114 頁の追加資料 (2)] 「ヨハネ福音書における 〈世〉」

### 1. 〈世〉の否定的な見方

〈世〉がイエスやキリスト者と対立する (7.7;8.23;14.17;ヨハネー 3.1;4.1-5 参照)。さらに敵対すると見なされる (ヨハネー 2.15-17;3.13 参照)。

### 2. 〈世〉の由来

〈世〉 (コスモス) は、ギリシャ語では調和ある空間としての自然界・宇宙を意味する。

- (a) ギリシャ語と同じ意味で (11.9;16.21 参照)。
- (b) 「父のところ」との対象で (6.14;9.39;ヨハネー 3.17 参照)。
- (c) ログos 賛歌で (1.9-11 参照)。

### 3. 〈世〉の現状

〈世〉を救いや啓示の対象として (1.29;3.16 参照)。

〈世〉が否定的にとらえられているときには、人間世界 (人間の総体) を意味しており、自然を含む宇宙全体は、人間の罪ゆえに悪に染まった。

## [116 頁の追加資料]

### 「生きた水」 (4.10 参照)

4 章 10 節・15 節の「生きた水」は、二重の意味を持つ。

この水は、もともとは溜まり水でない、流れている新鮮な水のこと。しかし、イエスは全く別の次元のことを話した。例えばシラ書 24 章 21,23 節では、良い水なので、また、すぐ乾くと言われているか、ヨハネでは「決して渴かない」 (4.14 参照) と。

ちなみに、ログos 賛歌では、律法と恵と真理が比較されている (1.17 参照)。また、7 章 37 節以下で、イエスの与える啓示が人の中に留まって原動力となり、力の源泉となると主張する。